

## 博物館・美術館等保存担当学芸員研修(ホ08)

- 目的 1) 文化財の担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を行う。  
2) 研修の体系を完成させるとともに、研修受講者を対象としたアンケート及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を行い、その結果を踏まえ研修計画を策定する。

- 成果 1. 第37回博物館・美術館等保存担当学芸員研修を、文化財活用センターと共催で実施した(2020(令和2)年10月5~15日、受講者17名)。  
2. 1週目の基礎的な内容の講習を文化財活用センターが担当し、2週目を当所の各研究室がおよそ半日単位で受け持ち、以下の講義を実施した: 文化財の科学調査(分析科学研究室)、生物被害対策(生物科学研究室)、屋外文化財の保存(修復計画研究室)、温熱環境制御(保存環境研究室)、近代文化遺産の保存(近代文化遺産研究室)、修復材料の種類と特性/紙資料・日本画の保存修復(修復材料研究室)、博物館の防災(文化財防災センター)。  
3. 研修終了後にカリキュラム各項目の理解度や有用度、また今後の要望等に関するアンケート調査を行った。参加者から有益と評価された。  
4. 第36回博物館・美術館等保存担当学芸員研修受講者の所属長あてに、研修成果の活用実績やカリキュラム、応募手続き等に関する要望を問うアンケート調査を行った。



研修の様子

- 研究組織 ○秋山純子、相馬静乃、小安友利恵(以上、保存科学研究センター)、水谷悦子(併任、文化財防災センター)、吉田直人、間渕創(以上、併任、文化財活用センター)

## 文化財の収集・保管に関する指導助言(シ)

令和2年度は以下の組織等において指導助言を行った(24件)。

1. 国立歴史民俗博物館運営委員・資料収集委員会
2. 文化審議会世界文化遺産部会での世界遺産条約の履行に関する助言
3. 北区文化振興財団による中高生のためのレベルアップワークショップへの協力
4. 大分県立埋蔵文化財センターでの企画展協力及び講演
5. 北区文化振興財団によるアトリエ館での特別解説
6. 首里城火災で被災した文化財の記録作成
- 7~24以下、所蔵作品調査に関する協力・助言

国友鉄砲ミュージアム、甲賀市水口歴史民俗資料館、多久市郷土資料館、茨木市文化財資料館、南蛮文化館、神戸市立博物館、長崎市教育委員会、藤基神社(新潟県村上市)、大田区立勝海舟記念館、逸翁美術館、敦井美術館、新潟市歴史博物館

## 無形文化遺産に関する助言(ム)

無形文化遺産の保存・伝承・活用に関する各種委員会等へ出席し、以下の指導・助言を実施した。

- ・文部科学省の教科用図書検定調査審議会第6部会音楽小委員会に関する助言
- ・文化庁の文化審議会無形文化遺産部会等に関する助言
- ・文化庁の伝統芸能用具・原材料に関する調査委員会における当該調査及び助言
- ・文化庁の工芸技術記録映画製作監修委員としての助言
- ・文化庁の伝統文化親子教室事業に関する助言
- ・文化庁の調査員としての楽器を中心とした文化財保存技術に関する助言
- ・文化庁の調査員としての無形民俗文化財に関する助言
- ・山形県の文化財保護審議会に関する助言
- ・山梨県の文化財保護審議会に関する助言
- ・神奈川県民俗芸能記録保存調査企画調整委員会に関する助言
- ・千葉県の博物館資料審査委員会に関する助言
- ・東京都の東京都民俗芸能大会実行委員会に関する助言
- ・愛媛県の石鎚黒茶製造技術調査委員会における当該調査に関する助言
- ・島根県の古代文化センターに関する助言
- ・静岡市の文化財保護審議会に関する助言
- ・武蔵野市の文化財保護委員会に関する助言
- ・京都市の京都芸術センター伝統芸能文化創成プロジェクト推進会議に関する助言
- ・岐阜市・関市の長良川鵜飼総合調査専門委員会における当該調査に関する助言
- ・草津市への青花紙保存継承懇話会における青花紙保存に関する助言
- ・箱根町への箱根湯立獅子舞調査に関する助言
- ・公益社団法人全日本郷土芸能協会への運営に関する助言
- ・一般財団法人日本青年館への第69回全国民俗芸能大会企画に関する助言
- ・讃岐獅子舞保存会への獅子舞王国さぬき2020に関する助言

## 文化財の虫菌害に関する調査・助言(ホ)

**目的** これまでに蓄積された文化財の生物被害対策に関する調査・研究の成果を活かし、国や地方公共団体等からの要請に応じて専門的な見地から生物被害対策の技術的な協力・助言を行うことにより、文化財の保存に関する質的向上に貢献する。

**成果** これまでに蓄積された文化財の生物被害対策に関する調査・研究の成果を活かし、国や地方公共団体等からの要請に応じて専門的な見地から技術的な協力・助言を行うことにより、文化財の保存に関する質的向上に貢献した。

主な虫菌害問題の相談元は、国や地方公共団体の博物館、美術館、図書館、教育委員会や社寺などの文化財保存担当あるいは文化財修復関係機関等であった。

対応件数は41件あり、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための緊急事態宣言中はメール等で対応し、現地での調査が必要な案件については、緊急事態宣言が解除された6月から10月まで集中して行った。

11月以降は新型コロナウイルス感染症の再拡大に対応するため、インターネットを介して生物劣化を診断したり、試料採取方法をあらかじめインターネットを介して指導し、採取された試

料を研究所で解析したりするなど新しい対応方法を試みた。

相談内容は、殺虫・殺菌処理に使用する薬剤に関することなどの一般的な相談案件ほか、木造建造物、遺構や古墳などの屋外施設での虫害やカビの発生に関する案件など多岐にわたる相談があった。特に梅雨時期が長かったことと、自粛期間中に日常点検が出来なかった博物館等があったことなどからカビによる被害相談が多かった。

現場の対応とあわせて、啓発・普及活動の一環で生物被害に関する研修講師を1件担当した。その際に生物科学研究室で作成した啓発普及ポスターを配布し、広報普及活動を行った

**研究組織** ○佐藤嘉則、小峰幸夫、小野寺裕子、矢花（篠崎）聡子、岡部迪子、早川泰弘（以上、保存科学研究センター）

保存科学研究センター

2-(5)-②-1)

## 文化財の修復及び整備に関する調査・助言(ホ)

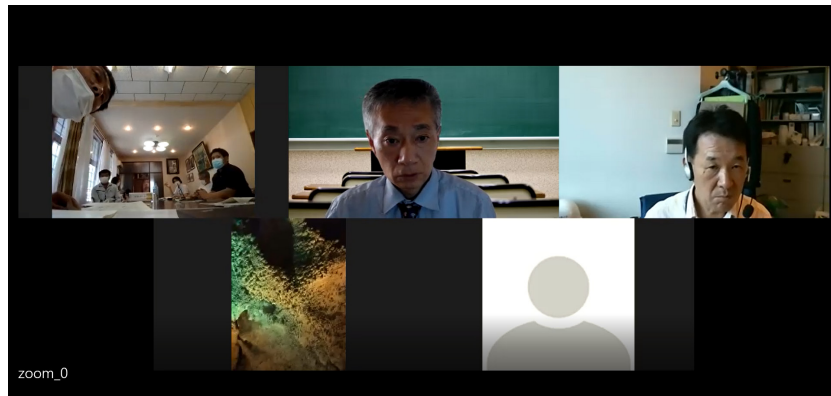
**目的** 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・専門的知識の提供等を行う。

**成果** 1. 令和2年度に実施した各地の国宝、史跡や重要文化財等の保存や修復に関する指導助言は以下のとおりである。

国宝高松塚古墳壁画、国宝臼杵磨崖仏、国宝平等院鳳凰堂、特別史跡キトラ古墳壁画、特別史跡王塚古墳、史跡端島炭鉱跡、史跡佐渡金銀山遺跡、史跡足尾銅山、史跡葦山反射炉、史跡高島炭坑跡、史跡原爆ドーム、史跡原城跡、史跡日野江城跡、史跡下藤キリシタン墓地、史跡屋形古墳群、重要文化財通潤橋、重要文化財旧志免鉱業所竪坑櫓、重要文化財通潤橋、重要文化財熊野磨崖仏、重要文化財頼賢碑、重要文化財・祇園橋、重要文化財厳島神社大鳥居、重要文化財菊蒔絵手箱、重要文化財日光二荒山神社本殿、重要文化財琉球芸術調査写真（鎌倉芳太郎撮影）、重要文化財「松浦武四郎関係資料」、重要文化財高千穂神社所蔵狛犬、特別天然記念物秋芳洞、天然記念物風連鍾乳洞、天然記念物龍河洞、熊本県内被災古墳。

2. 地方自治体指定その他の文化財の保存と修復に関する指導助言は以下のとおりである。

首里城、川崎市民ミュージアム、東京都「第5福竜丸」、日本航空協会航空関連紙資料、長崎県史跡日本二十六聖人殉教地、富山市大山恐竜足跡化石群、栃木市星野遺跡、さぬき市海女の墓、北方領土関連資料、日本民藝館所蔵厨子甕資料。



龍河洞についてのオンライン診療風景

## 文化財の材質・構造に関する調査・助言(ホ)

- 目的** 様々な文化財資料について、その材質や構造を明らかにするために、科学的調査を実施する。可搬型の機器を用いて、文化財資料が置かれている場所での現地調査も実施する。
- 成果** 令和2年度は、蛍光X線分析による材質調査、及びX線透過撮影による構造調査などの調査・助言を実施した。調査を行った作品、所蔵先、調査月は以下の通りである。

1. 材質調査
  - ・日本画(龍安寺)
  - ・日本画(宇和島伊達文化保存会)
  - ・日本画(絵金蔵保存会)
  - ・漆工品(総持寺)
  - ・考古資料(東京国立博物館)
  - ・建造物塗装(東京都庭園美術館)
  - ・金箔(中尊寺)
  - ・経典(四天王寺)
  - ・画材(秋田県立近代美術館)
  - ・金工品(平等院)
2. 構造調査
  - ・木彫像(最勝寺)



木彫像の構造調査

- 研究組織 ○犬塚将英、早川泰弘(以上、保存科学研究センター)

## 美術館・博物館等の環境調査と援助・助言(ホ)

- 目的** 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。

- 成果**
1. 国指定品の所有者以外による公開、公開承認施設申請に係る資料保存環境調査の相談窓口は令和元年度より文化財活用センターに一本化された。  
当所では、公立美術館・博物館、社寺等から保存環境に関する相談を受け、新型コロナウイルス感染症対策のため現地で環境計測できた箇所は少なかったが、今後の改修を見据えた環境測定を実施することができた。
  2. 新型コロナウイルス感染症に対する博物館等でのウイルス除去・消毒作業に対し、消毒による文化財への影響が懸念されたため、文化庁・文化財活用センター・東京文化財研究所保存科学研究センターの三者が協力し、対応に当たった。博物館、美術館、文書館等の展示室や収蔵庫

における消毒のみならず、建造物に対する消毒やお祭りに使用する民俗文化財への消毒など多岐にわたる相談を受けた。それらの相談に対し、できる限り薬剤による消毒をせず、他の感染防止対策を講じること、消毒をしなければならない場合についても対処の仕方や換気などについてそれぞれの状況に応じた助言を行った。

研究組織 ○秋山純子(保存科学研究センター)、水谷悦子(併任、文化財防災センター)

保存科学研究センター

2-(5)-④-1)

## 東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進(ホ)

目的 連携大学院教育の推進

連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。

・東京藝術大学大学院：システム保存学(保存環境学、修復材料学)

成果 緊急事態宣言中から他専攻に先んじてオンライン講義を始め、解除後には対面講義と併用して教育を進めた。全ての講義で受講生は例年よりも多く受け入れ、オンラインの特性を活かして演習や教員会議などへの貢献も例年よりも行うことができた。



オンライン講義風景

### 1. 今年度開講した授業及び担当教員、受講者数

保存環境計画論(前期、火曜1限) 2単位 朽津信明・犬塚将英・佐藤嘉則 20人(聴講2人)

修復計画論(前期、木曜1限) 2単位 朽津信明・安倍雅史 9人(聴講3人)

修復材料学特論(前期、木曜2限) 2単位 早川泰弘・早川典子 12人(聴講3人)

保存環境学特論(後期、火曜1限) 2単位 犬塚将英・佐藤嘉則 7人(聴講1人)

文化財保存学演習

講師：朽津信明「自宅で文化財を見学しよう」

日時：2020(令和2)年5月26日(火) 13～17時 21人(聴講2人)

講師：安倍雅史「Metashape(旧PhotoScan)を使った3次元測量実習」

日時：2020(令和2)年10月20日(火) 13～17時 21人

### 2. 今年度在籍学生

修士課程2年 1名(指導教官：佐藤嘉則)

博士課程1年 1名(指導教官：早川典子)

### 3. 成績評価等、文化財保存学専攻運営への協力

教室会議(11回)、入試合同判定会議(2回)、博士・修士学位審査会への協力

研究組織 ○朽津信明、早川泰弘、犬塚将英、早川典子、佐藤嘉則(以上、保存科学研究センター)、安倍雅史(文化遺産国際協力センター)、渡邊尚恵(東京藝術大学)